

Tubbataha Reef

トゥバタハリーフは、1993年にフィリピンでは初めての

世界自然遺産に登録された貴重な場所。

この海域は3月中旬～6月中旬のみ足を踏み入れることが許され、

世界中のダイバーから注目を集めるスペシャルなディスティネーションだ。

なかでもゴールデンウィークはトゥバタハのベストシーズンとなる。

ダイバーだからこそ味わうことが出来る世界遺産。来シーズンは要注目!

世界遺産 トゥバタハ リーフへの旅

ゴールデンウィーク限定スペシャルトリップ

透き通る水面を颯爽と駆け抜けダイビングへ向かう

Photo&Text = **Kyu Furumi**

Special Thanks = **WorldTourPlanners**

Design = **PanariDesign**

Web-lue 2009. Autumn





時の 代弁者。

Corals

この景色に出会えて良かったと、心からそう思える

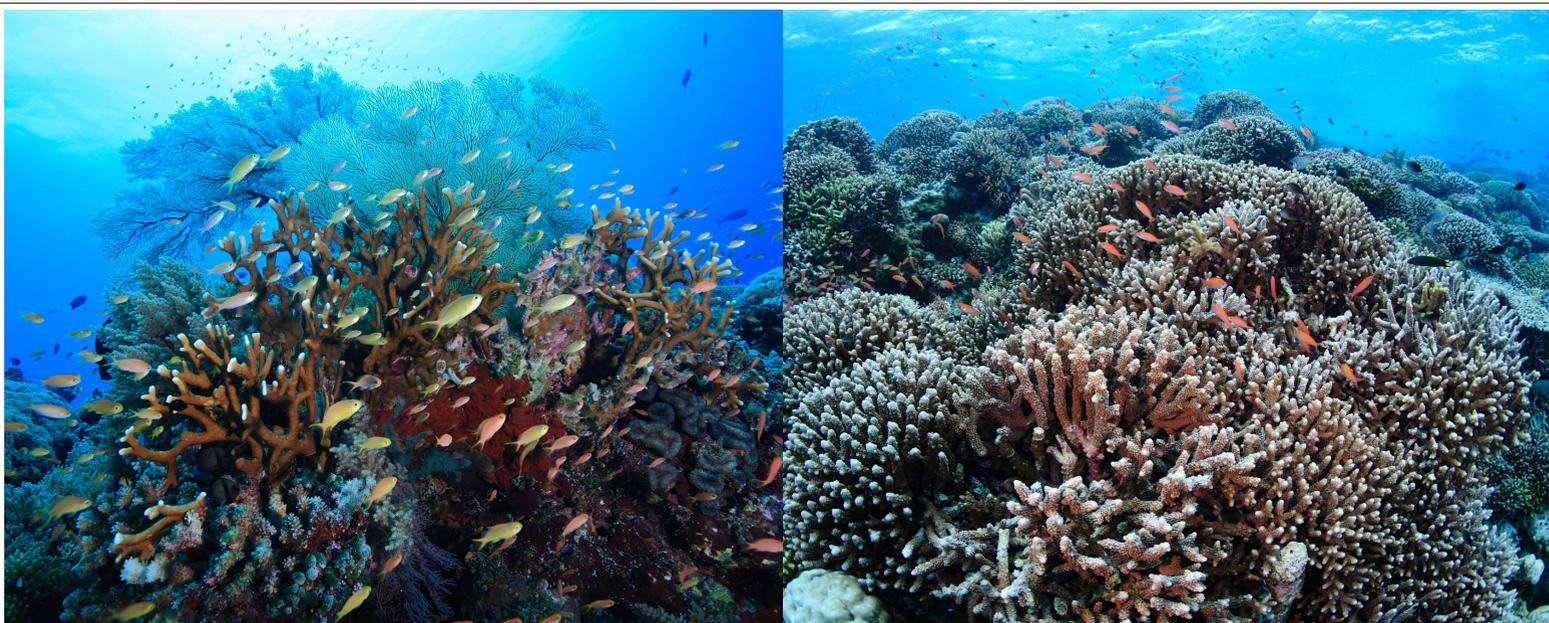
世界遺産トウバタリーフへの旅
Web-lue 2009. Autumn





トウバタハリーフは、南北2つの環礁によって形成されるリーフである。ノースアトール（北環礁）は全長16km、幅5km、サウスアトール（南環礁）は全長5km、幅3kmと北に比べるとやや小ぶり。総面積約330km²の中に、およそ360種のサンゴが生息すると言われ、日本が世界に誇るサンゴ礁域である八重山の総面積約の590km²と比較してみても、トウバタハリーフのサンゴが如何に狭い範囲の中で、高密度の群生を形成しているのか感じてもらえるだろう。しかもトリップの玄関口となるパラワン島からは片道160kmほど離れているため、デイトリップは常識的に不可能で、クルーズでのみアクセスすることが出来る期間限定のスペシャルな場所だ。

時の代弁者。



程よいカレントがありメラネシアンアンティアスが美しく固まる

あまり青の高いサンゴは見かけないのだが、その密度はかなり高い

年間を通じてダイバーに解放される期間は約3ヶ月。自然が気の向くままに育て上げたサンゴ礁は、リーフをギッシリと埋め尽くし、無造作に力強くひしめき合う。悠久の年月を経て、幾重にも積み重なるサンゴ礁。その姿から自然の強さや野生の力、そして美しさを感じることが出来るだろう。しかし、それと同時に自然の弱さと脆さも受け取ることができる。トウバタハのサンゴは訪れる者に何かを問いかけている気がしてならない。



ギンガメアジの突進に圧倒される

迫力の形。

Topography & School

世界遺産トウバタリーフへの旅

Web-lue 2009. Autumn



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha>

← 関連情報HPへ



ト ユバタハリーフのそれぞれの環礁の中央付近は、完全なサンゴの保護区域となっているので、基本的に我々は立ち入ることが出来ない。したがってここでのダイビングの基本は、リーフ周辺のドロップオフを流すドリフトスタイルとなる。豪快に垂直に切り立つドロップオフにはシーファンやウミトサカ、カイメン類などが付着し、華やかな海中風景を作り上げている。

そして、トゥバタハでは大物や群れとの遭遇も数多い。ポイントや時間帯にもよるのだが、どこに潜ってもカレントはあると考えておいた方がよい。もちろん人が潜れる程度の流れの強さを狙って潜ることが多いのだが、時に強い流れが入ることもあるので、ブリーフィングでの注意点や、水中でのガイドの動きには常に視界に入れておこう。



迫力の形。Topography & School

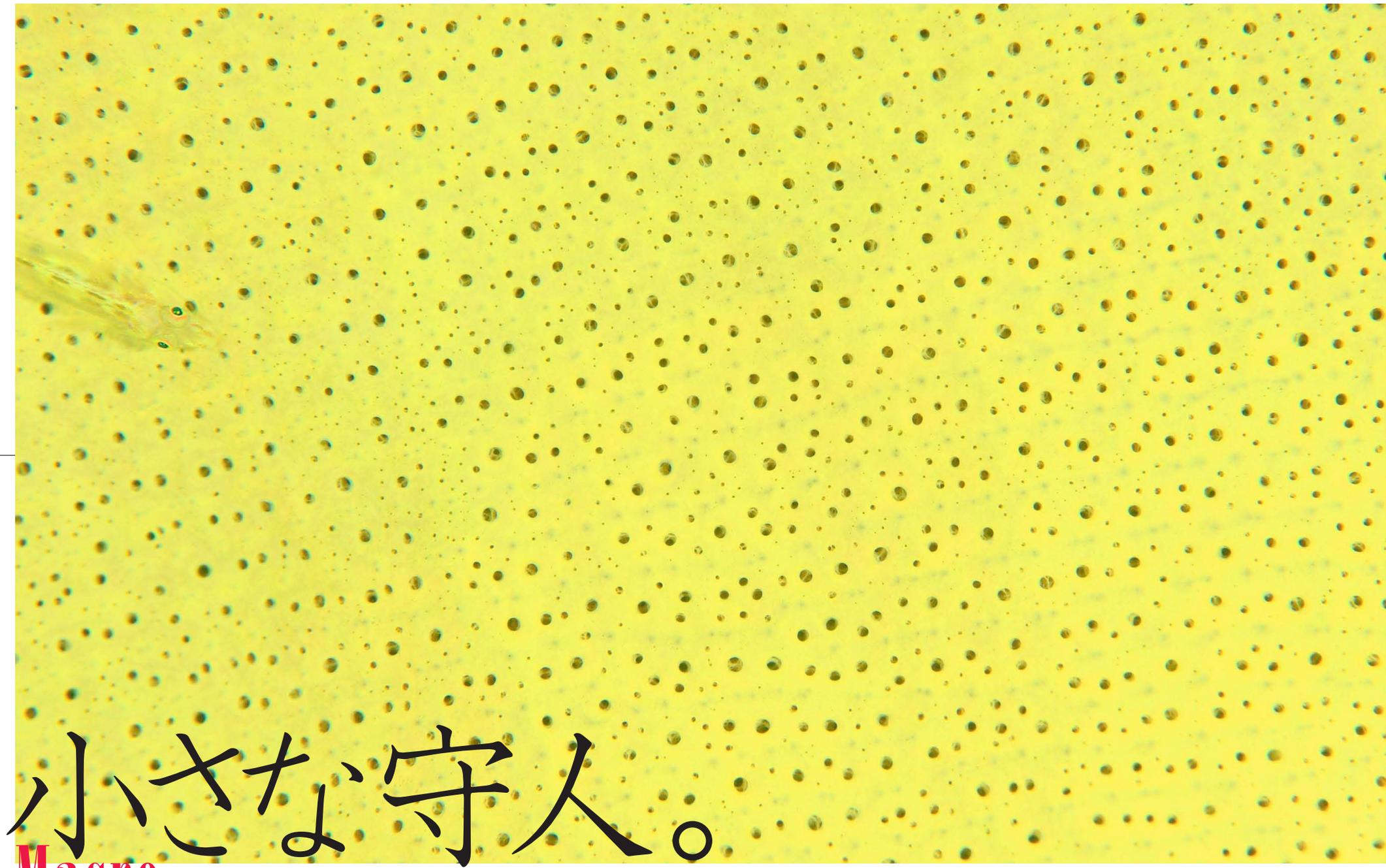


巨大なクラックなど、地形のバリエーションもある(左) でっかいマダラエイがカメラに向かって突撃してきました(右)



カ レントがあるということは、多くの魚の活性が高まる可能性が高い。鮮やかなウメイロモドキなどのタカサゴの仲間。それらを狙う巨大なロウニンアジやカスミアジ。潮当たりの良い「シャークエアポート」や「ウォッシングマシーン」、「マラヤンレック」などは特に大物との遭遇率は高い。そして運が良ければハンマーヘッドやマンタと何気なく出会ってしまったたり、なんとなんと巨大なジンベエザメと遭遇することもあるらしい。世界遺産の海は計り知れないほどのポテンシャルを秘めている。

- 01/ 突如現れたバラクーダの編隊
- 02/ ウメイロモドキの群れは見るだけで幸せな気持ちになります
- 03/ スドンと落ち込む豪快なドロップオフ
- 04/ 壁際では常にカスミアジが猛スピードでハンティングをしている



小さな守人。

Macro

鮮やかなカイメンにひっそり暮らすメニーホストコビー





- 01/ 沢山出会えるニチリンダテハゼ。じっくり向き合いたい
- 02/ カラフルなホヤなども多いので、背景などに利用したい
- 03/ ソフトコーラルの周辺には小さなハゼが生息する
- 04/ スミレナガハナダイも数多く、雌雄中間の個体もよく目にする
- 05/ ドロップオフにはアケボノハゼも
- 06/ ナイトダイブでは様々な甲殻類が出てくる
- 07/ キレイなサンゴの家に住むギンゴ君



派手派手なイナスマヤッコはよく目立つ



小さな守人。 M a c r o



個人的に大好きなコムトウスプレニー。沢山います

トゥバタハリーフでは、美しいサンゴや豪快な地形や群れを追うあまり、視界を広く持つダイビングスタイルになりがちではあるのだが、じっくりマクロ生物を探してみても実は楽しいのである。カメインの上に可愛いハゼ、フォトジェニックなウミウシも沢山いる。広いドロップオフには大きな横穴が開いていることが多く、そういったところの砂溜りには、かなりの確率でニチリンダテハゼがひっそりと暮らす。覗く穴覗く穴、全てにニチリンニチリンのオンパレード……とは、

少々言い過ぎだが、あまりにいっぱいいるので、近くを泳いでいるダイバーに教えてあげようとしても、皆大物に気を取られて気づいてもらえず、オーバーなアクションで注意を引こうとするも、それもスルー。「そりゃないぜ」と落ち込みながら、ひとりニチリンに慰めてもらうカメラマン。感動を共に分かち合えず、そんな寂しい思いをしている人も居るかもしれないので、なるべく小まめに周囲は確認してみしてほしい。



齋藤 邦彦さん、絢子さん

学生時代サンゴの研究をしていたので、トゥバタハリーフに興味を持ち今回参加しました。評判通りの見事なサンゴ礁に感動しました！この素晴らしい海を今後も守っていかなければいけないと思いました。クルーズでの生活はフレンドリーなスタッフ、美味しい食事、一緒に楽しいメンバーに恵まれ、毎日楽しくあつという間でした。いつも潜っている北海道の海とは違ってカラフルな魚や、大物も沢山見ることが出来て大満足です。



相田 智久さん

豪快なドロップオフはカレントが入り変わる事が多く、常に大物がどちらかの方向から向かってくる。早朝ダイブなどのリクエストにも柔軟に対応してもらえたり、毎ダイブ後にはタオルサービスから美味しい食事まで、船上生活も快適そのものでした。出航から10時間かけて行くだけあって、ポイントには他の船も少なく、のびのび潜ることが出来ました。



田中 信子さん

初日から天候には恵まれず、皆のテンションはイマイチ上がらなかったのですが、日を追うごとに回復し、最終日には澄み切った青空とブルーの海に皆のテンションは上がるばかり……。素晴らしいサンゴに光が差し込み潜っているだけで幸せな気分になりました。ラストダイブを終えた皆の顔は最高の笑顔です。この笑顔がトゥバタハリーフの全てを物語っていたのだと思います。このクルーズは私の心の中の大切な1ページにしたいと思います。



日名子 佳子さん

3年ぶり3回目のフィリピンの海はやっぱりサンゴてんこ盛りの楽しいダイビングでした。でも、ダイビングと同じくらい楽しかったのはクルーズでの出会いかな……。あまりクルーズには参加したことがなく、最初は少し緊張しましたが一人で来ても、いや、むしろ一人で参加して良かったって、そんな気分です。やっぱりダイビング旅行サイコー!!



小島 英郎さん

トゥバタハはポテンシャルを感じさせてくれる海でした。期待通りのサンゴ、見知らぬ者同士が皆仲良くなれたクルーズ。いずれも最高でした。機会があればまた是非!



佐藤 一馬さん

今回はあまり天候に恵まれませんでしたでしたが、何かが出るような期待感の強い海でした。サービスや食事も良く、快適なクルーズ生活でした。

Guest Voice 感じたこと。



三浦 穂高さん

サンゴが凄い!! さすが世界遺産!!



坂口 晴美さん

数年前からずっと気になっていた海で、出発までの間、仕事を頑張ってやっと来ることが出来ました。サメが大好きなので、「シャークエアポート」では砂地で休む彼等の間に入って川の字で寝たかったのですが……。次はサメの腕枕でzzzzzz……。



今坂 康志さん、祐美子さん

初クルーズでした。ダイビングはもちろん満足。でも、クルーズの楽しみはダイビング以外にもあるんですね。ダイビングと人生において経験豊かな皆様と過ごすことができ、本当に素晴らしい毎日でした。クルーズは初めてでしたが、クルーズの皆様はとても親切とても心が和みました。



西 一洋さん、学美さん

「期間限定」にそそられて申し込んだ、初めてのダイブクルーズでした。世界遺産のサンゴの海で、200本記念も迎えることができ本当に良かったです。クルーズで知り合えた方々の奥深いダイビングの話を知ることができて、とても楽しかったです。



寺野 一也さん、博子さん

大物と群れにしかあまり興味が無い私たちでしたが、「スタッホーン」の丘には感動しました。ジンベエもハンマーもいる……。その気配は間違いなく感じました。初めてのクルーズ経験でしたが、ダイビング以外の楽しさも格別です。トゥバタハクルーズまた潜りに来ます。



斉木 由美さん

トゥバタハのブルーな海に魅了され、カラフルな魚に囲まれた癒しのダイビングが出来ました。クルーズライフも美味しい食事と楽しい仲間と囲まれて、毎日楽しく過ごすことができました。



棟方 順子さん

さすが世界遺産!サンゴの山って凄い!!サンゴの上に色々なサンゴが乗っていて、何年かかたらこんな風景になるものか、感慨深いものがありました。カメラにも沢山出会えて嬉しかったです。



01/美しい水路は眺めているだけで幸せな気分になる 02/レンジャーステーションは美しい砂洲にある 03/期間中に誕生日を迎えたゲストにはサプライズケーキがある。かも…… 04/ダイビングデッキは広く使い勝手が良い



I n f o r m a t i o n

About Tubтатаha

24万km²にも及ぶ、広大なスロー海のご真ん中に浮かぶトゥバタハリーフ。正式名称は「トゥバタハ岩礁海中公園」。パラワン島の東の岩礁とサンゴ礁を保護する目的で設置された海中公園だ。一年の内でダイバーに開放されるのは3月～6月の3ヶ月のみ。クルーズの拠点となるパラワン島から9時間～10時間かけて到着するスペシャルなディステーションだ。リーフ内には約450種のサンゴ、約400種の魚類、クジラなどの海洋哺乳類が9種類、ウミガメ2種類、80種類の海藻・海藻類が記録されている。

Access

各地からマニラに入りホテルに一泊し、翌早朝クルーズが出航するパラワン島のプエルトプリンセサへ。プエルトプリンセサの空港から港までは送迎車に乗り込み15分～20分。港からトゥバタハまではクルーズで10時間～12時間ほど。



Diving style

本船から小型のテンドーボートに乗り換えポイントへ向かう。基本的にドリフトでガイドと共に潜るグループダイブだが、カレントなどが複雑に入るポイントがあるため、グルーズの動きは注意して常に見ておきたい。万が一の緊急事態に備えシグナルフロートは必ず携帯するようにしたい。そして、トゥバタハリーフに到着してからダイビングの事故が起きてしまった場合、医療機関の整うパラワン島まで約10時間かかるため、くれぐれも無理をせず体調を整え、安全なダイビングを心がけてもらいたい。

Next Tour!

期間限定2010年ゴールデンウィーク
世界遺産トゥバタハクルーズ

お問い合わせ&お申し込みは、トゥバタハクルーズのバイオニア
ワールドツアープランナーズへ……Tel. 03-5425-7711

<http://www.wtp.co.jp> info@wtp.co.jp

予約
受付開始!

05/広々とした造りのステラマリスエクスプローラー。見た目もカッコいい

06/食事も美味しいと大好評

07/親切で陽気なスタッフ達。頼りになります。

08/ブリーフィングはトップデッキで海風を受けながら

世界遺産トゥバタハリーフへの旅

Web-lue 2009. Autumn



Information Link
<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha>

← 関連情報HPへ